

A. 丁寧さ

〈不適切〉

- 1
- 1. 1 保育者のものの扱いが荒々しい(例. ものを投げる。音を立てて戸の開け閉めをする。)
 - 1. 2 保育者の子どもへの言葉遣いが乱暴であったり、否定的である。
 - 1. 3 子どもへの対応が乱暴である(例. 行動面を言う。手を引っ張る、体を押す。)

2

〈最低限〉

- 3
- 3. 1 保育者の教材や遊具・材料、作品の扱いで丁寧さを心がけている。
 - 3. 2 保育者は丁寧な言葉遣いを心がけている。
 - 3. 3 保育者は、子どもが協同の遊具や用具を大切にし皆で使うよう、必要に応じて言葉がけをしたり、使いかたなどの手本を子どもにみせている(遊具や楽器の使い方など)。

4

〈よい〉

- 5
- 5. 1 子どもの教材や遊具・材料、作品を丁寧に扱う。
 - 5. 2 保育者の言葉がけは、子ども一人ひとりを尊重している。
 - 5. 3 子どもの乱暴な言葉遣い(例、相手を傷つけたり不快にする言葉遣い)には、保育者は必要に応じて対応する。

6

〈よいよ〉

- 7
- 7. 1 教材などが破損した場合、子ども自らが直せるものは自分で補修する。
 - 7. 2 改まった場面では、子どもが丁寧な言葉遣いをしている。

B. 食育

〈不適切〉

- 1
1. 1 食事／間食の時間が適切でない(例.子どもは空腹でも待たされる)。
 1. 2 食物が栄養的に好ましくない。
 1. 3 雰囲気良くない(例.保育者がマナーに厳しい・子どもは食べることを強制される・ごちゃごちゃと落ち着かない)。

2

〈最低限〉

- 3
3. 1 時間が適切である。
 3. 2 食事／間食*は栄養のバランスが取れている。
 3. 3 通常衛生状態が保たれている。
 3. 4 保護者に対して、食事や生活リズムの大切さを知らせたり、一人ひとりの喫食状況を伝えている。

4

〈より〉

- 5
5. 1 保育活動のバランスや調和を図る等、こどもが空腹感を感じ食事を楽しみにするよう配慮する。
 5. 2 季節にちなんだり、地域の食材を取り入れたりした料理が献立にある。
 5. 3 保育者は、子どもが食事のマナーを理解し、みんなで気持ち良く食べられるように配慮する。
 5. 4 身近な動植物に親しみをもち、作物を育てたり、調理したり、味わったりする活動が季節ごとにある。
 5. 5 調理を担当する職員と子どものかかわりがある。
 5. 7 子どもの見る、触れる、嗅ぐ、味わう等の感覚の働きが豊かになるような環境を整える(例.給食の食材を保育室に置く、切って匂いをかぐなど)。

6

〈より〉

- 7
7. 1 子どもが自分で食べられる量に加減できる(もしくは、自分で必要な量だけ配膳する)。
 7. 2 子どもが食材に触れたり調理したりし、感じたことや考えたことを言葉や他の方法で表現することができるよう配慮する(例.本物の食材を直に手に取る。感触や匂いなど感じたことを言葉で表現する。三色栄養素に分類する)。
 7. 3 身近な動植物に親しみをもち、食べることと体のつながり(栄養についての知識)を知り、生命の尊さに気づく活動が有る(例.三色栄養素・「いただきます」の意味を学ぶ)。
 7. 4 地域の中で、食材を作ったり、流通に関わったり、販売したりする人と関わる活動がある(例.近くの市場やスーパーなどを見学に行く)。

C. 環境を識る

〈不適切〉

1. 1 生活に関係の深い情報や施設などについての話がされない。
 1. 2 季節の話題や行事についての説明がされない。

2

〈最低限〉

3. 1 生活に関係の深い情報や施設などについての話や掲示がある(例. 交通標識、身近な施設、季節による人間の生活の変化、自然の変化や成長過程、近隣の歴史、行事の由来)。
 3. 2 季節の行事に参加する経験ができる。

4

〈5〉

5. 1 保育者は、子どもが環境について疑問に感じたことを調べる方法を知らせる。
 5. 2 自然や人間の生活、行事など身近な環境の認識を深めるような教材が2つ以上ある(季節の変化に対応する衣装や小道具。年齢やテーマに応じたシンボルやカード等)。
 5. 3 子どもが経験したり調べたりしての、気づきや感動を遊びの中で表現したり、発展させるように、必要に応じて援助している。
 5. 4 近隣のさまざまな自然物を媒体に友達と一緒に同じ目的をもち協力して物事をやり遂げる機会がある(例. 季節の変化の観察・植物の生長など)。

〈6〉

6. 1 子どもが経験したり調べたりしての、気づきや感動を言葉やさまざまな表現方法で伝え合えるように、必要に応じて援助している。
 6. 2 保育者は子どもが共通の目的を見出し、物事をやり遂げるために協力するための気持ちが持てるようお互いの気持ちが理解できるような論理的なかわりをする。
 6. 3 季節により人間や動植物の生活に変化あることに気づいたり、生命の尊さに気づくような絵本の設置や写真の掲示がある。
 6. 4 保育者は自分とは異なった文化や価値観を持ったひと(外国人であるか日本人であるかを問わず)に気づけるように心がけている。
 7. 5 保育者は、役割理解をより高めるための活動を取り入れたり、保育者が仲立ちになり、役割の違い(言葉遣いなど)を実際に知らせたりする。
 7. 6 保育者は、遊びの中で数的知識(数、序数、グループ分け、図形、大小、量等)に気付くような環境を作ったり、援助をしたりしている。
 7. 7 保育者は、書き言葉(例. **手紙ごっこ**などを通し、**簡単な絵や文字で伝え合うことを楽しむ**)に親しむ環境を作ったり、援助をしたりしている。

D. 協同的学び

〈不適切〉

- 1
- 1. 1 子どもが自由に遊べる時間がない(全て保育者が決めた遊びしかできない)。
 - 1. 2 子どもが自由に遊ぶ空間がない。
 - 1. 3 子どもが自由に遊ぶ遊具がない。

2

〈最低限〉

- 3
- 3. 1 子どもが自分のイメージを持ち、目的を持って遊べる時間がある。
 - 3. 2 子どもが自分のイメージを持ち、目的を持って自由に遊べる空間がある。
 - 3. 3 子どもが自分のイメージを持ち、目的を持って自由に遊べる遊具がある。
 - 3. 4 子どもが自分の考えや感じたことを自由に表現できる。
 - 3. 5 子どもは自分の生活にみとおしを持ち、自分でできることは自分でできるよう配慮される。
 - 3. 6 保育者は、子どもが自らルールの意味に気付くことができるように、援助している(生活の中で決まりの大切さや必要性を知り守ろうとする。決まりを守るのはなぜか)。

4

〈5割〉

- 5
- 5. 1 同じ遊びを続けたい時は、数日間活動が続けられる空間や時間が保証されている。
 - 5. 2 子どもが自由に遊具を選び使える。保育者は子どもの様子を見ながら、必要なものがあれば用意する。
 - 5. 3 遊びの中で自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づくような保育者の受け止めや、その場に応じた適切な関わりがある。

6

〈5割以上〉

- 7
- 7. 1 友だちと一緒に活動する中で共通の目的のもと、自分の意見を表現し、友達の思っていることを聴き、協力して物事をやり遂げようとする。
 - 7. 2 保育者は、同じテーマの下、友達と一緒に考えたり試したり工夫したりして遊び、協力して物事をやり遂げる機会を保証する。
 - 7. 3 保育者は、友達とさまざまなテーマの中から、同じイメージを持ちながら遊びを作り出せるように必要に応じてアイデアを出したり、援助する。